



諸國
會圖

年中行事大成

五

共六

76
3382
5



門 382
號 5
卷

諸國
圖會

年中行事大成卷之下

五月之節目錄

十四

新日吉祭 系

十三

市娘祭 系

十二

道祖神祭 系

十一

今宮津出祭 系

十

縣祭 系

九

新宮祭 系

八

川端神明祭 系

七

端五 系

六

上賀茂足揃 系

五

相馬妙見祭 系

四

聖武天皇御忌 系

三

端五 系

二

川端神明祭 系

一

新宮祭 系

鹿苑院殿忌 系

宮川奉奠供 系

宝船神祭 系

高浦角 系

印地打 系

上賀茂競馬 系

高浦湯 系

藤森祭 系

生玉流籠馬 系

宮川奉奠供 系

上賀茂競馬 系

生玉流籠馬 系

鹿苑院殿忌 系

上賀茂競馬 系

生玉流籠馬 系

宝船神祭 系

上賀茂競馬 系

生玉流籠馬 系

宝船神祭 系

上賀茂競馬 系

生玉流籠馬 系

宝船神祭 系

上賀茂競馬 系

生玉流籠馬 系

宝船神祭 系

上賀茂競馬 系

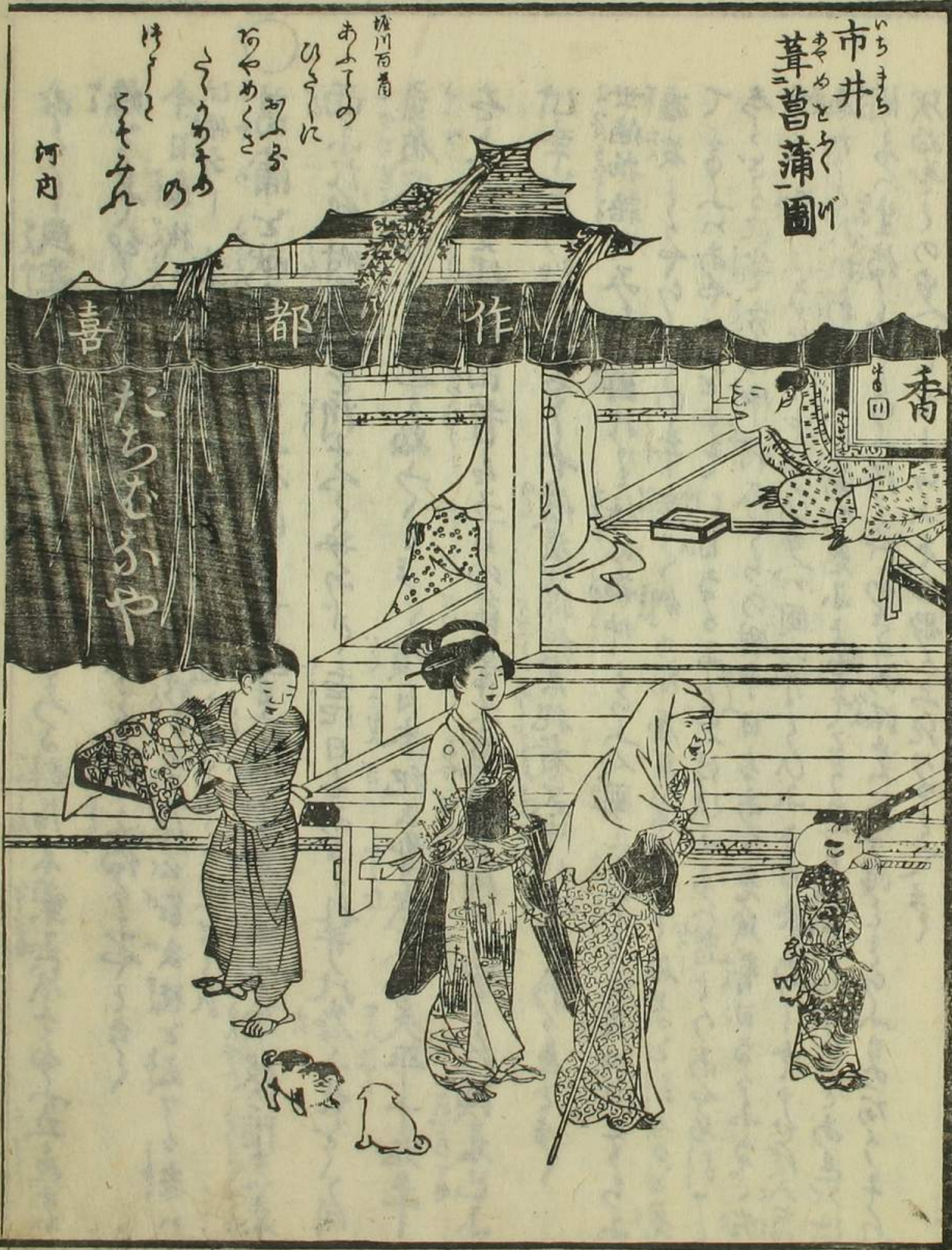
生玉流籠馬 系

宝船神祭 系

上賀茂競馬 系

生玉流籠馬 系

早稲田大学 圖書印
昭和25年
購入



おとく典薬寮あや光の机とてまづる群島本薬玉成なる五色を
糸とて引く小の玉を懸鬼状をしく中ノ文侍やとしく

今日良後五の御愛を今日上皇侍とて云ん公家良冠とて云ん紫ハ
は依り禁裏院中の命帯と地白の御のひとて云ん

○ 葛蒲と献ふ 乙亥根源を五月二日六府あやめ此薬を南殿の階を東
西小たの川の死を物とて母あはるに日とあされ井此を小是とて川

主殿寮あはる志中ぬくとしく續日本紀云聖武天皇自天平十九年
を上天皇作て曰昔を五日の節常小葛蒲を用ゝ纏るん頃未已小

け事と傳ひ今日とて後葛蒲授ふ記者文中に入るなりとしく
世絶物語云みちの國けり橋の物仲とて人國とて五月に日とあらふ

瘧疾とてやりの年老の例の何屋先もはあはる業と引ると見え
てまふいあや光とて引目するふとていばはふも昔よりあや光引と

あはるに実方の中將みさりの附今日とあや光成昔日るふとて左
中の事はるなりとていひの國の力とていふさる幸なりとて中台はる

あはるに生後とていひはるふとていひの國の力とていふさる幸なりとて中台はる
状婦とていひはるふとていひの國の力とていふさる幸なりとて中台はる

史本 沢水に米士の母のいゝあや光とていふはるふとていひの國の力とていふさる幸なりとて中台はる

禁裏 院中殿今葛蒲 豆屋 寮 葛蒲 尙州とて日山珠玉とて
郡が聖庄六卿の民馬帽子赤雲とていひてはるふとていひの國の力とていふさる幸なりとて中台はる

禁裏 院中殿今葛蒲 豆屋 寮 葛蒲 尙州とて日山珠玉とて
流に浴湯の中に入るとていひはるふとていひの國の力とていふさる幸なりとて中台はる

○ 藥玉 或は五月に長命續續令續續兵備 天曆御記云延喜十二年
五月五日丙午絲所とて藥玉を竹本とていふはるふとていひの國の力とていふさる幸なりとて中台はる

菜萁式云九諸衛府献ふの葛蒲并 雜彩時の花寮の司中生藏部
延喜式云九諸衛府献ふの葛蒲并 雜彩時の花寮の司中生藏部

等紙幸之檢収して糸所之階と云く 世産回言云法爲五月

經之故より茶玉と五色の糸とて須くおらふかこれ無気候と云く

今日より去年九月九日と掛りて其の茶葉と撮りて茶玉と云け

行る其製行ありと云くも其拍葉を遠く山中に三ツの玉と付け其

遠花を切らば糸と云くも五色の糸を長く糸色艾高痛と付ふ

今日家々に飾曹高痛刀掛らば刀藏地長刀憎木の武差あり

武將乃人れを飾りて本偶作の強に抱めて其の物も此と云く

の節よりとて専ら男児の歌に男子の軍陣ありと武威を逞し

國郡と云くも功にありと出陣威勢の誇をうけて武差とのが

十月始と一陽生れ卦小午とて地雷復来より一月一陽生れ四月

中即純陽とあり五月に至る始と一陰生れ卦小午とて天風姤あり

是陰氣陽小達ひ地を胃き此節候を被送の名ありて是と退居と

の家成候ありと云く

或云云此に紅雲の沖早良銀玉高と云く平げ終る吉候ありと

りと終れ此其高たの終りあると云く史中史小史と云く

今日朔日とて男児ある家々の階を立武人孫及び此の武差と

下下小紀を初生の男児あり其親族知巳の方小橋く候と云く

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫

此の武差人孫小神候希小橋と作小橋と云く此の武差人孫



今日良候標を製して初小幸の先代回幸紀云瑞籬宮 帝 朝時二輪大神

掃り小運小天皇の羞小へく告り小吾和鬼神午頭大神性昔小を志

大蛇と宰内矣と富と痛と快を任む世間夜鬼等い皆は神の從徒あり

午月端午 其役を定む五色の餅と云く各茅の糸よ色と五色の糸

薬玉全圖

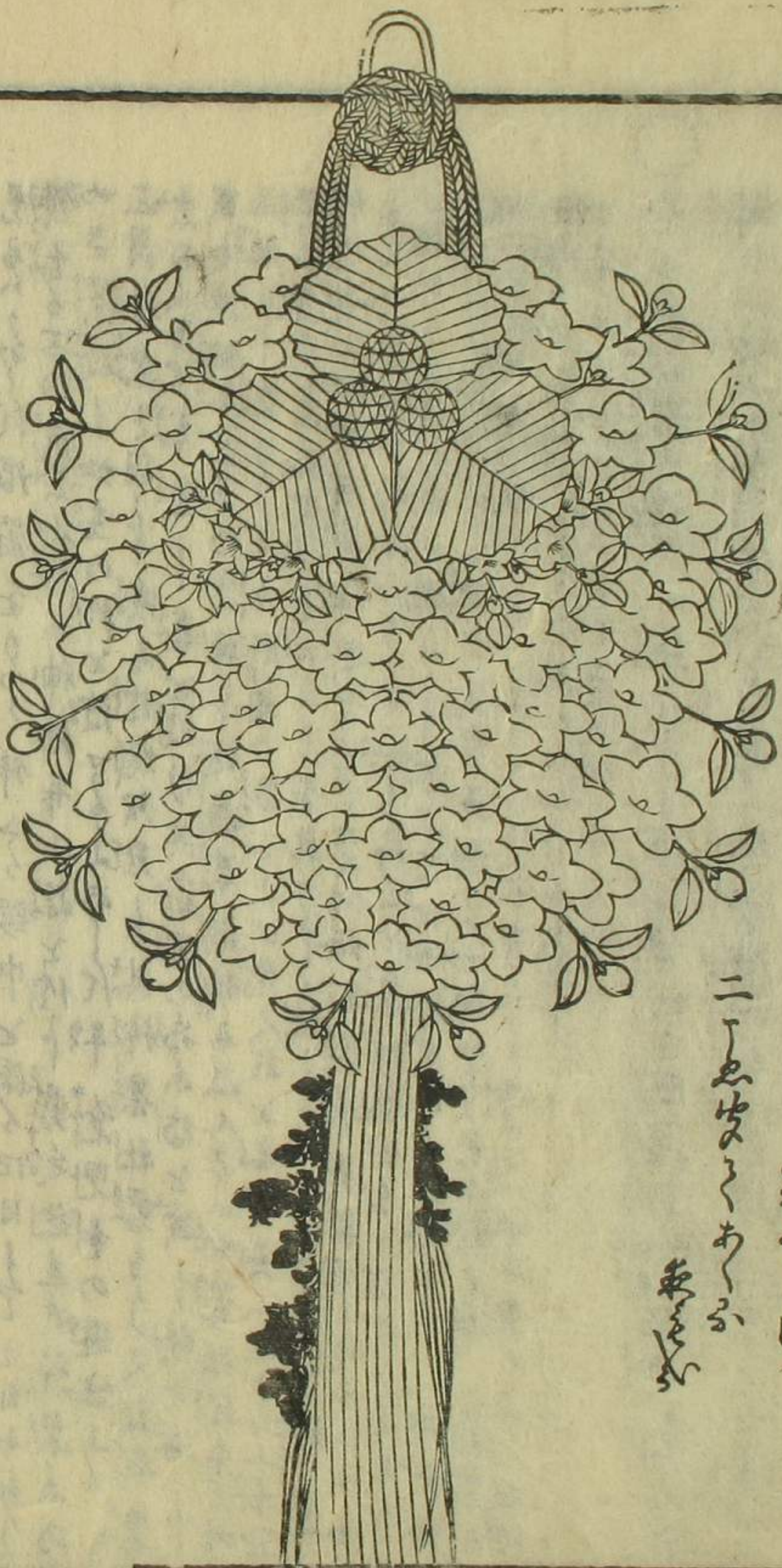
新編採

郭公鳴やのみ

玉うつりけ

二丁と安くわいふ

香

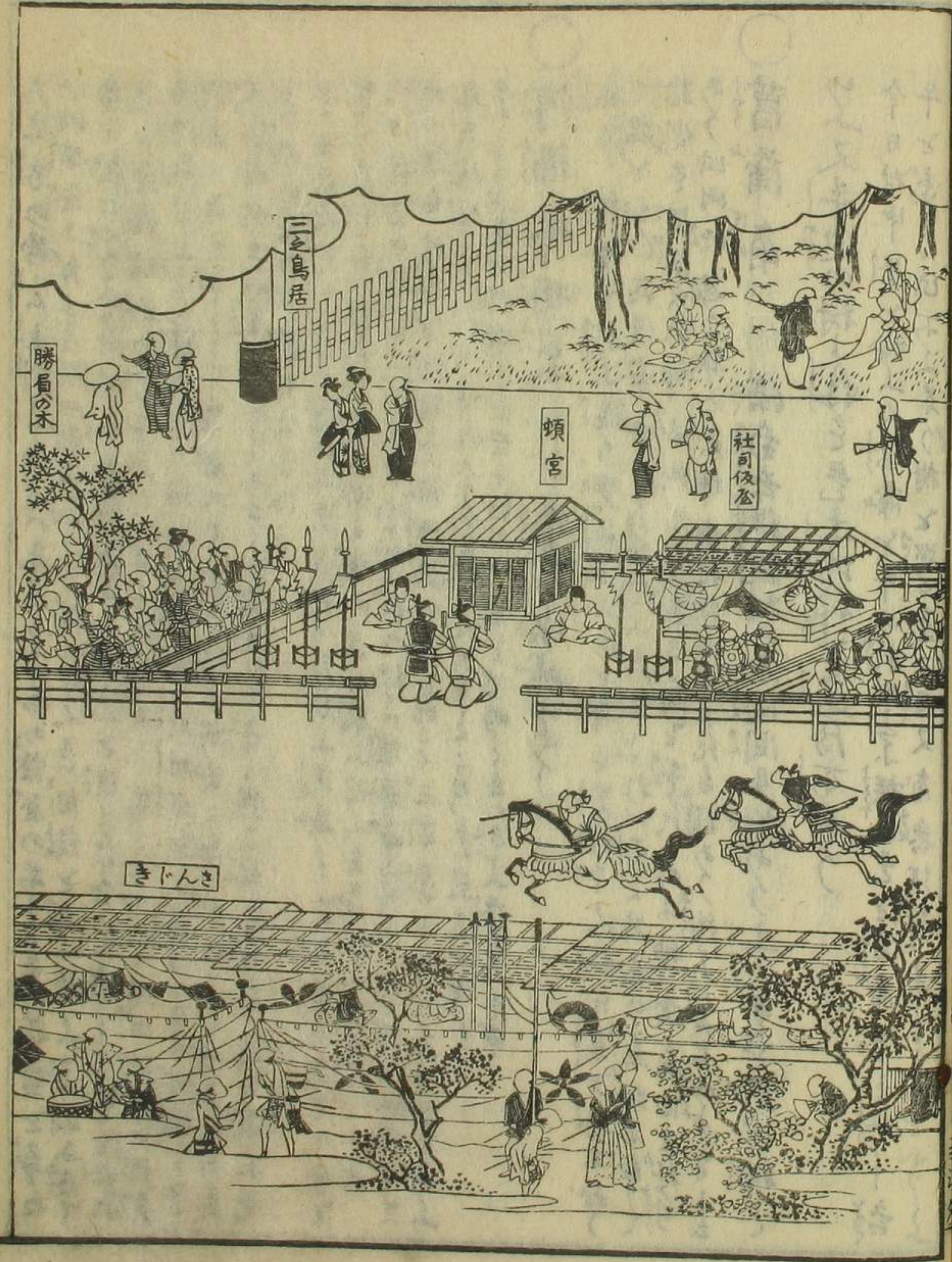
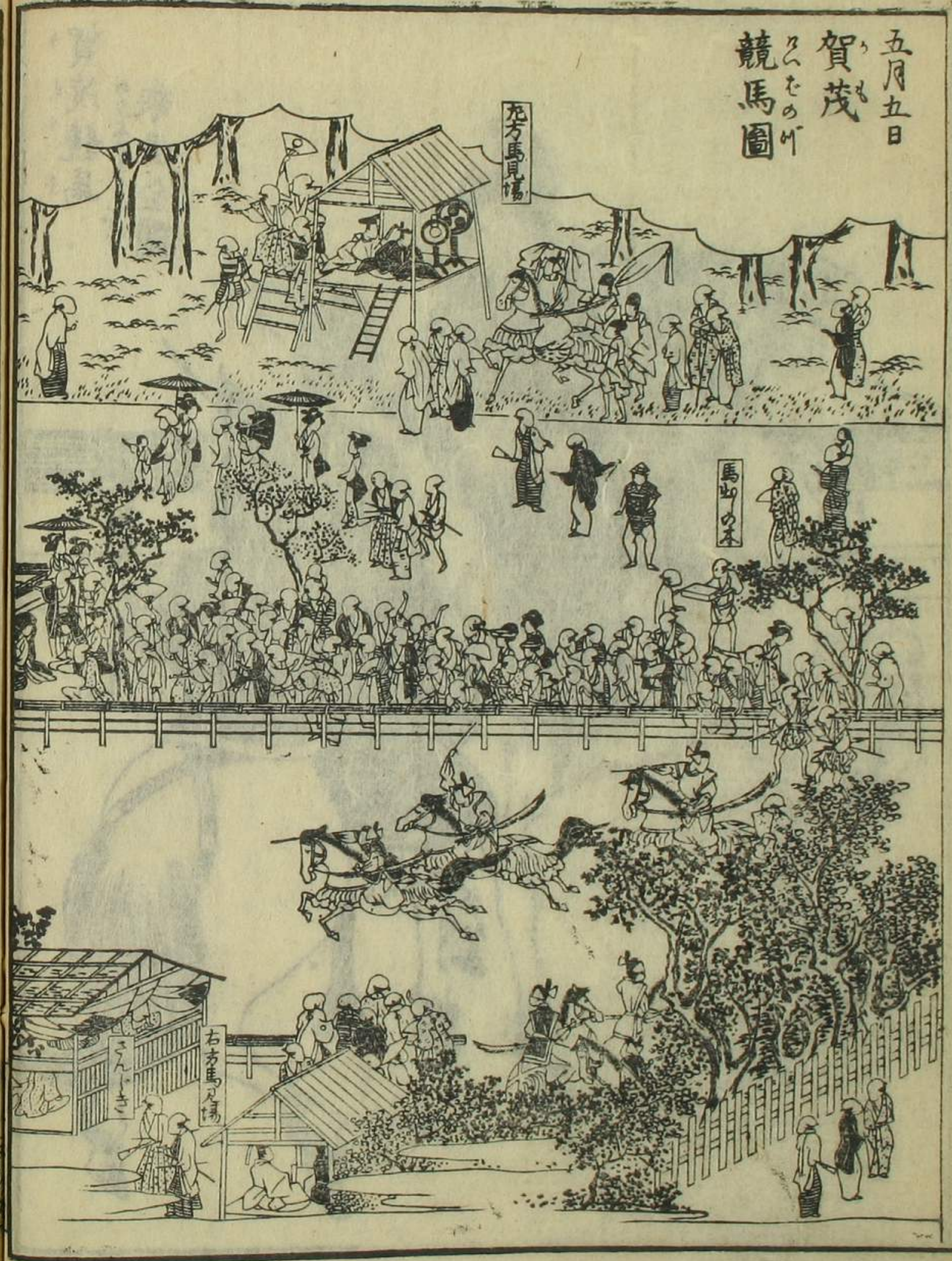


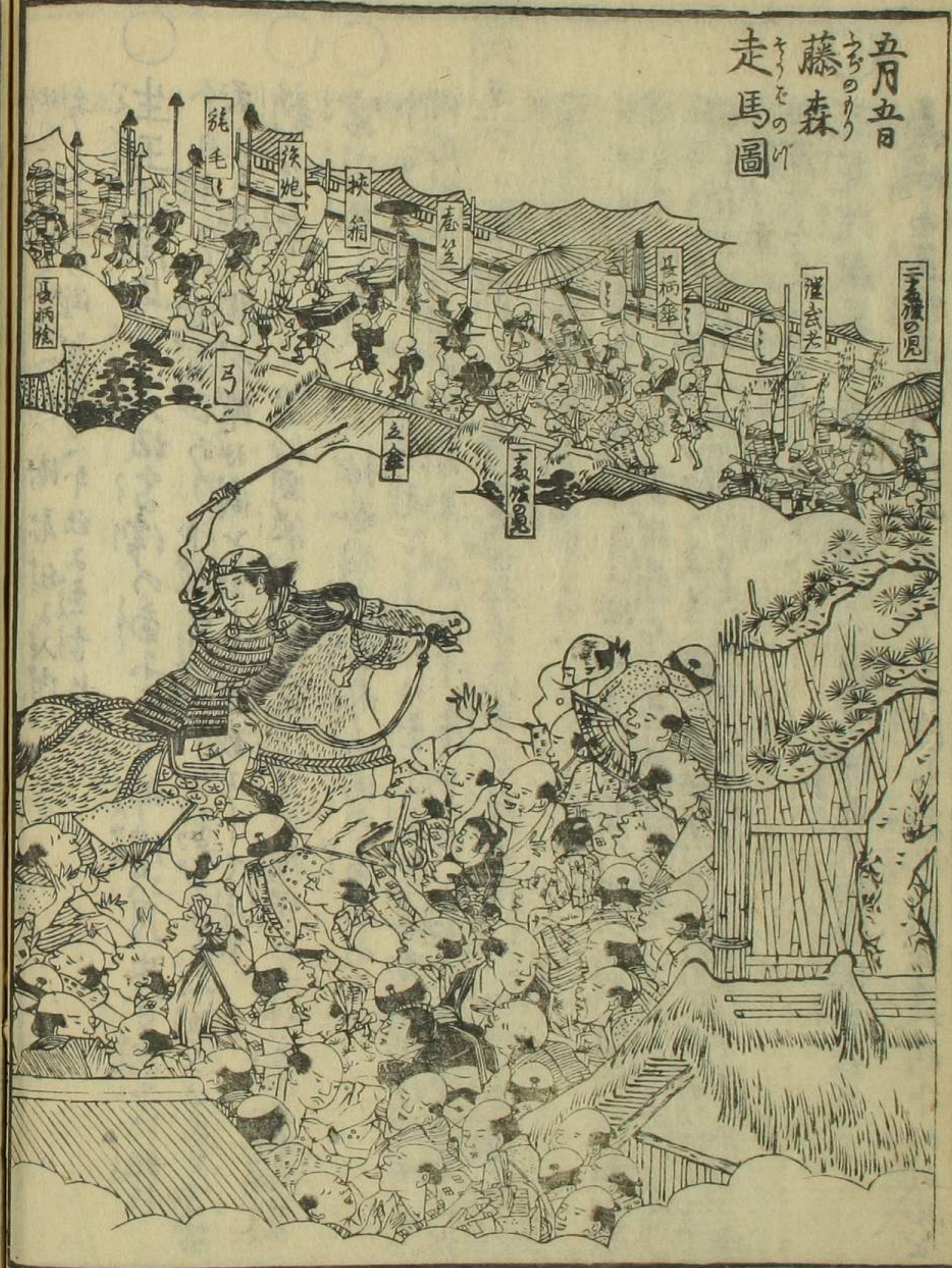
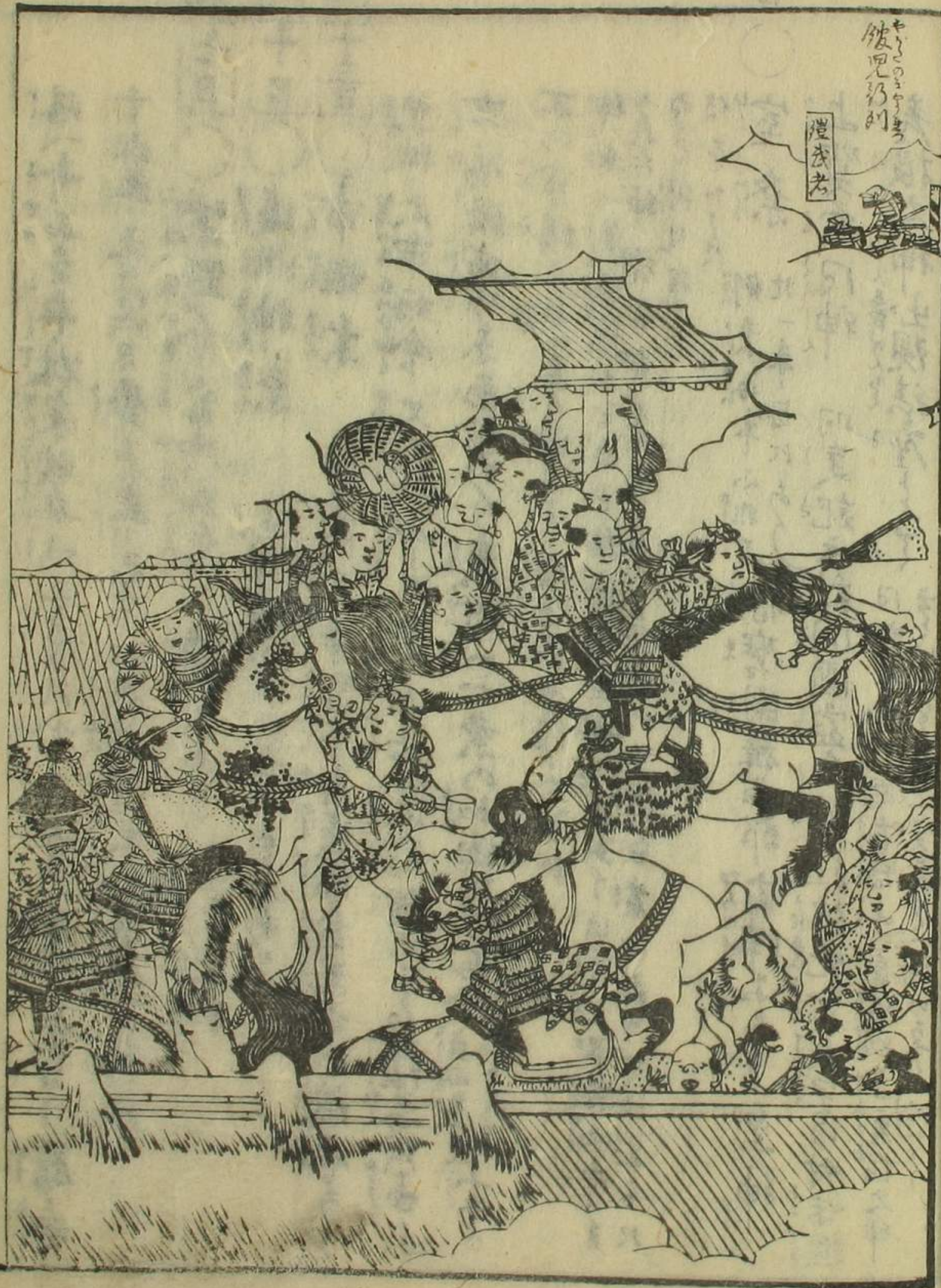
状のりく名五處小鏡雙本瓶をびく辛甘酒と盛圖馬鏡頭これを副て土
に埋め凝結方とびくい神と糸者行夜や兵刃名よ止と五穀を楳文小登ん
逆小教の如くこれを小果して告のおとく治平ととる

威謂唐土楚國のたま屋原とらふ人修ふやうなれは日洞羅の小身と投
して死と林人哀ては日毎月竹の荷ふ本流行へ水に投ぐ糸系僅の建武
中長沙の政回とらふ若一人と見る自と三周のたまと終つて日糸と見子
支甚若くともども倭籠のた小籜系惠あへ棟を築其く小寒に五淋
の糸とびく結るをへは二抱の倭籠の思ふありや今の標子とを是とを
起ると云 續齊俗記の意

其製つてへと蘇とらうりてきくぬちまはとつ今糸作と鞍馬山の興より
物器儀の弱くともりて園子とゆふと蕭とらうりてきくぬちまはとつ今糸作と鞍馬山の興より
葉げ篠の秀園子に核とて味のむよけと篠標とらうりてきくぬちまはとつ今糸作と鞍馬山の興より
用るるに月下旬よりは篠と持出市中と賣るはたまをへ大坂其分田全
あつた声のきくともてきく蘇標とらうりてきくぬちまはとつ今糸作と鞍馬山の興より
禁裏所用蘇所用道喜荒標と割るはたまをへ大坂其分田全
拍の蘇はくともてきく蘇標とらうりてきくぬちまはとつ今糸作と鞍馬山の興より
伊勢物器小のきくともてきく蘇標とらうりてきくぬちまはとつ今糸作と鞍馬山の興より

五月五日
賀茂
競馬圖





古今著聞集云

建保五年新日吉乃五月令小新院の番長泰頼輩。有生日武院法。...

其式りありて。後野の系祀にて。...

京師

十五日

今宮系

浩如紫野あり

系神

疫癘神

一條院正曆五年長保二年世間静於此神社を丘の山に建す

御霊舎とゆふ今宮と号し

今月親日奉社の神人。...

生花のむす。...

七日朔。...

洋の西。...

十五日朔。...

あり候世。...

廿日

今日國庭を多く嘗ふの如くして陛下ありて法武修くは國庭を牛はく
皇位の若くは格とて七聖候これ候はく雷海の守り候

廿三日

○ 田村麻呂忌

洛東清水寺小籠くは是候修ん

田村麻呂は左系を主新田麻呂の子心四位大春の孫なり性勇略以て
身の長五尺守胸の厚一尺式寸目鷹の如く鬚と金糸成編敷かき
身と多くを修む二百を引將とんは十六拾四寸目と怒とを狂猛候
法美とん老少馴親も世傳は候毘沙門の化身なり東夷と付
て功あり弘仁二年五月逝去年五十四山城國宇治郡栗栖野小舞曲寺
建立の大檀那を修ふ今日法更を修ふ

○ 長實寺七番頭長者式

梧州住吉郡平野小あり

田基は田村磨の女相成天皇此寵妃なり天皇崩下修のく後大月年
中世新小塾居ありて是を大野を号し田村堂丹將軍の像と安を修ふ
廣聖廟の作寺内小燈居此跡あり尚村小田村磨が此廟の系系七番頭

廿四日

○ 古知各彈誓忌

山城國志保郡大原郷小あり

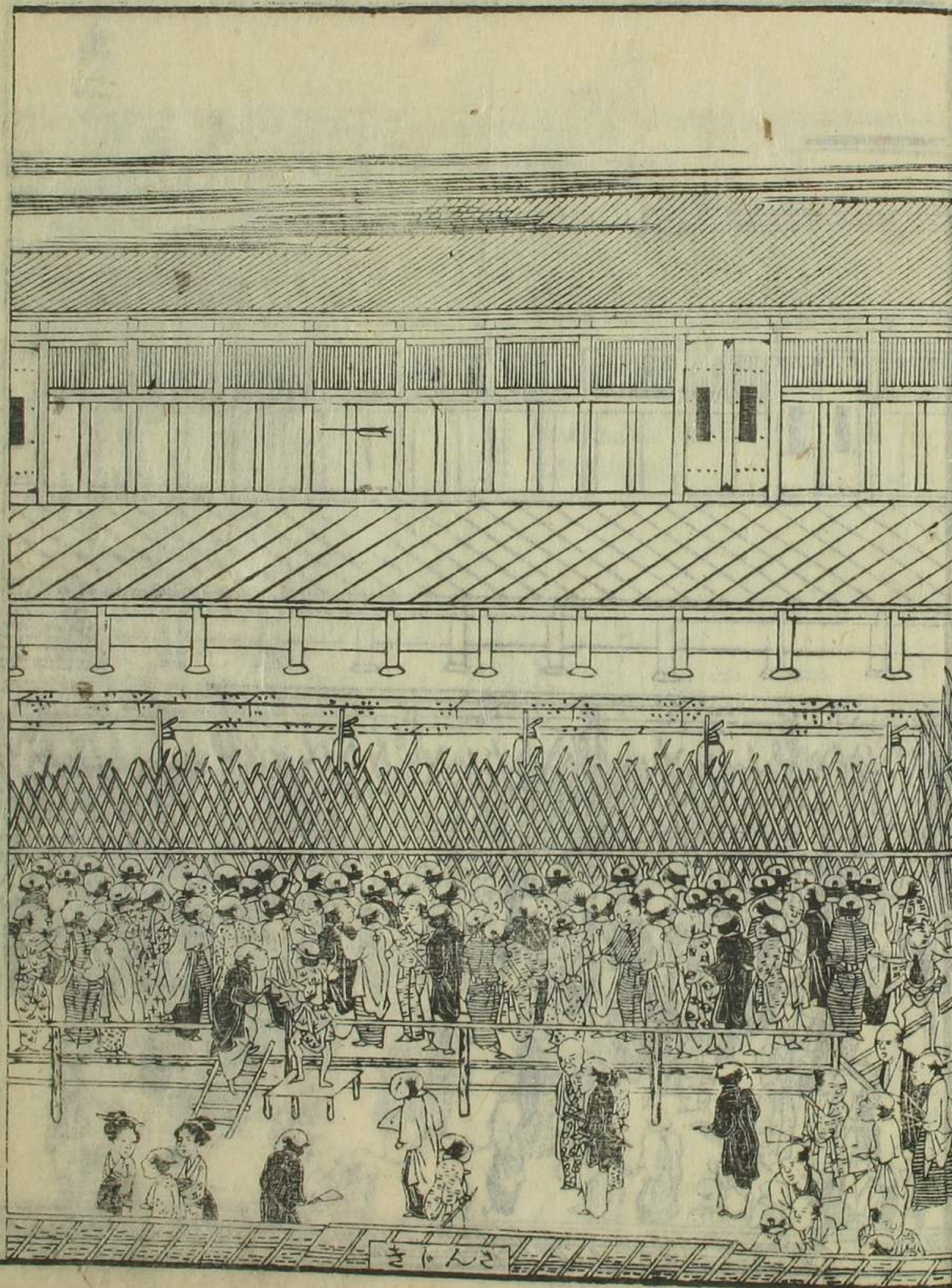
子孫相續く平井侍士と稱し今小原在氏今日尚寺小集りて遊ま
るは是試七番長者儀式と云是田村磨の孫長次初より一七取と土
稻末古二上過花あり

廿五日

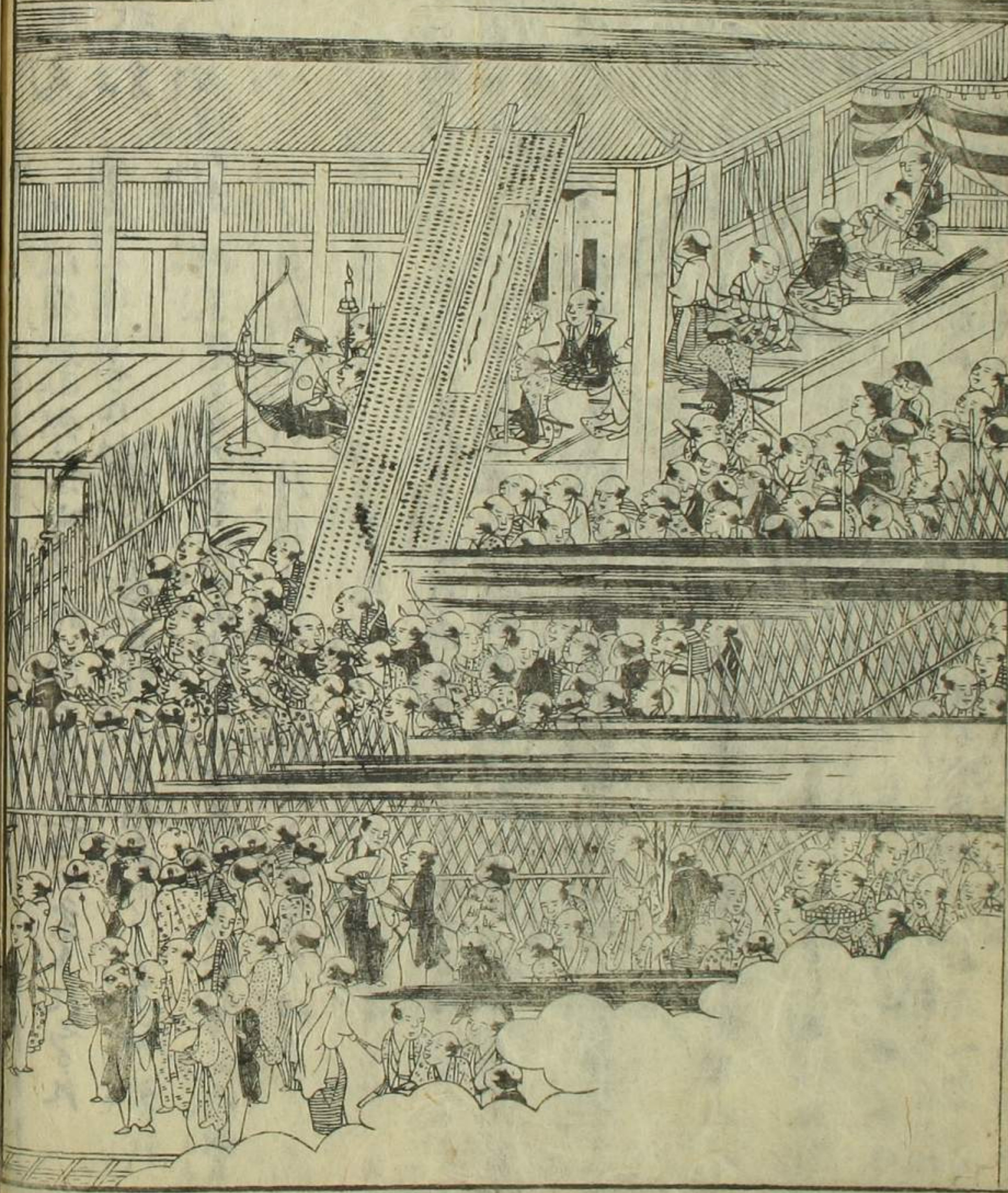
○ 奉國寺檀行奉疾義

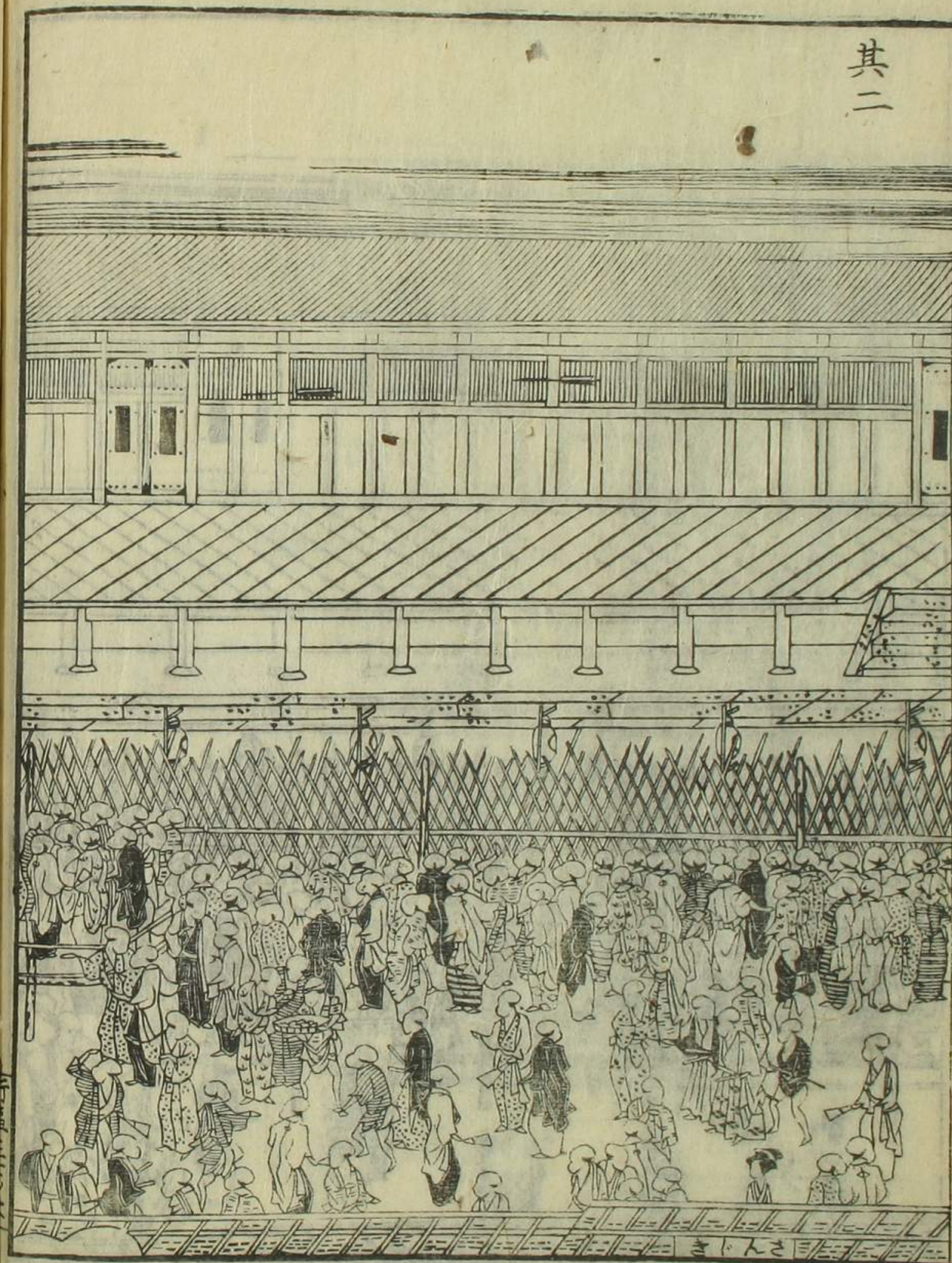
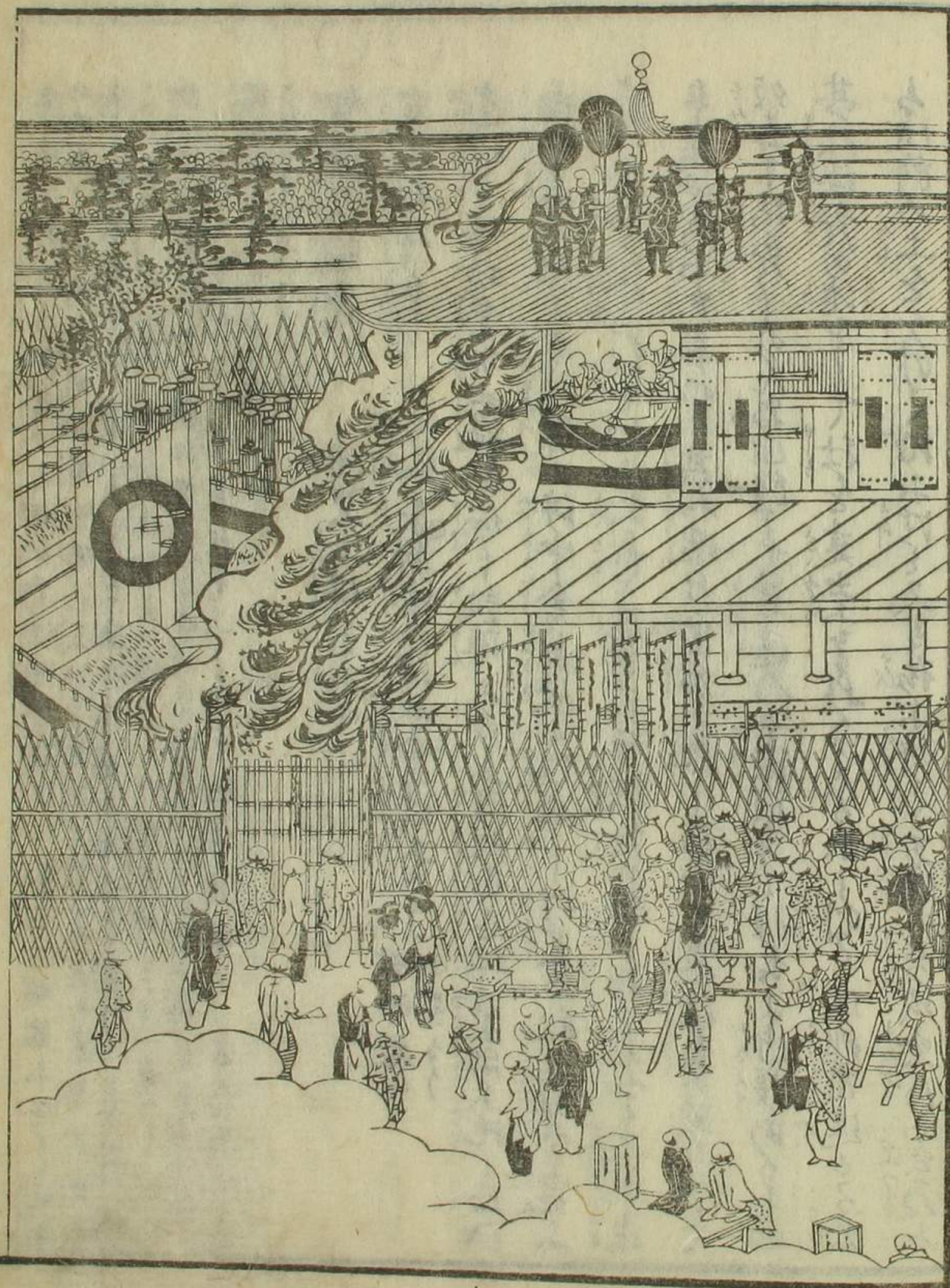
今日より七日 海川寺あり

富士郡離 今日より六月 山と駿河伊豆遠江甲斐の國小遠根を社と
駿河不毛郡あり法同神社又富士権現と号し今平大上社の女本苑
同郡姫今島居と申上吉田村小あり二國第一山の勅額と掲子あり



洛東
 三十三
 間堂
 大衆
 之
 數
 之
 圖





年毎小新... 其後... 智積院論義... 洛東大佛小あり

智積院論義

洛東大佛小あり

方達明神系

和泉國場の津三玉の辻小あり

尚社と神功皇后三韓と伝... 吾和毫... 其後... 方達明神系

尚社の別名向泉寺... 伊達智あり

今日系... 五月梅月御凱陣の時...

目不定

宸勝講

元亨釋書云永延帝

院 寛弘六年六月十九日

名徳を宮中に延く宸勝王... 弘いありい止む今... 乙亥根源云...

の條里山... ゆるかり之陣... ありせき

○是月 東寺長者 第七日 淨修法あり

○是月 禁裏より 淨香袋と 院中 親王宮門 旗振家 小遊せし 宿又 女中 未も下宿し

○是月 香具 笠籠 井播 磨初 瓜を 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 南都 春日の 社 祭 園庭 棋 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

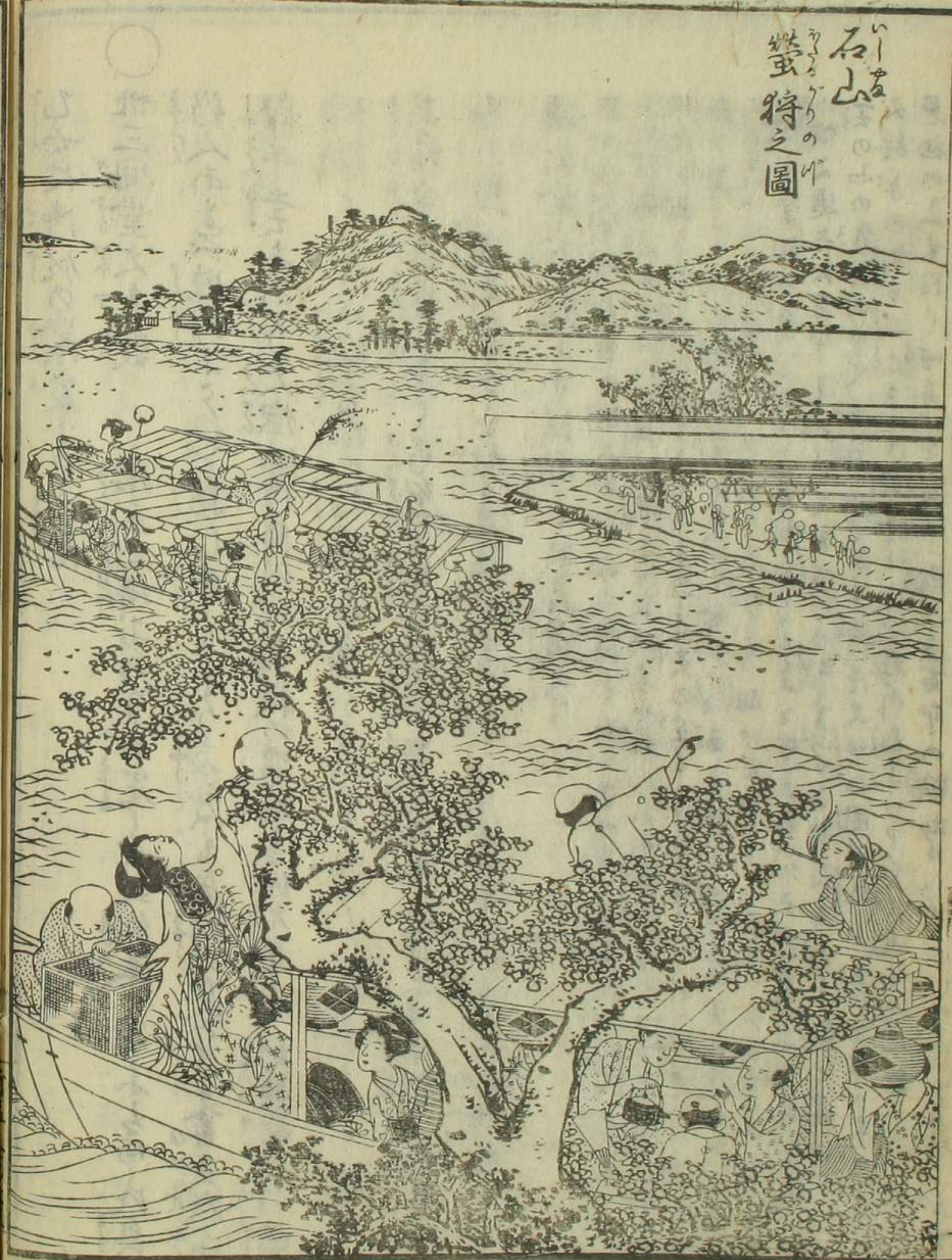
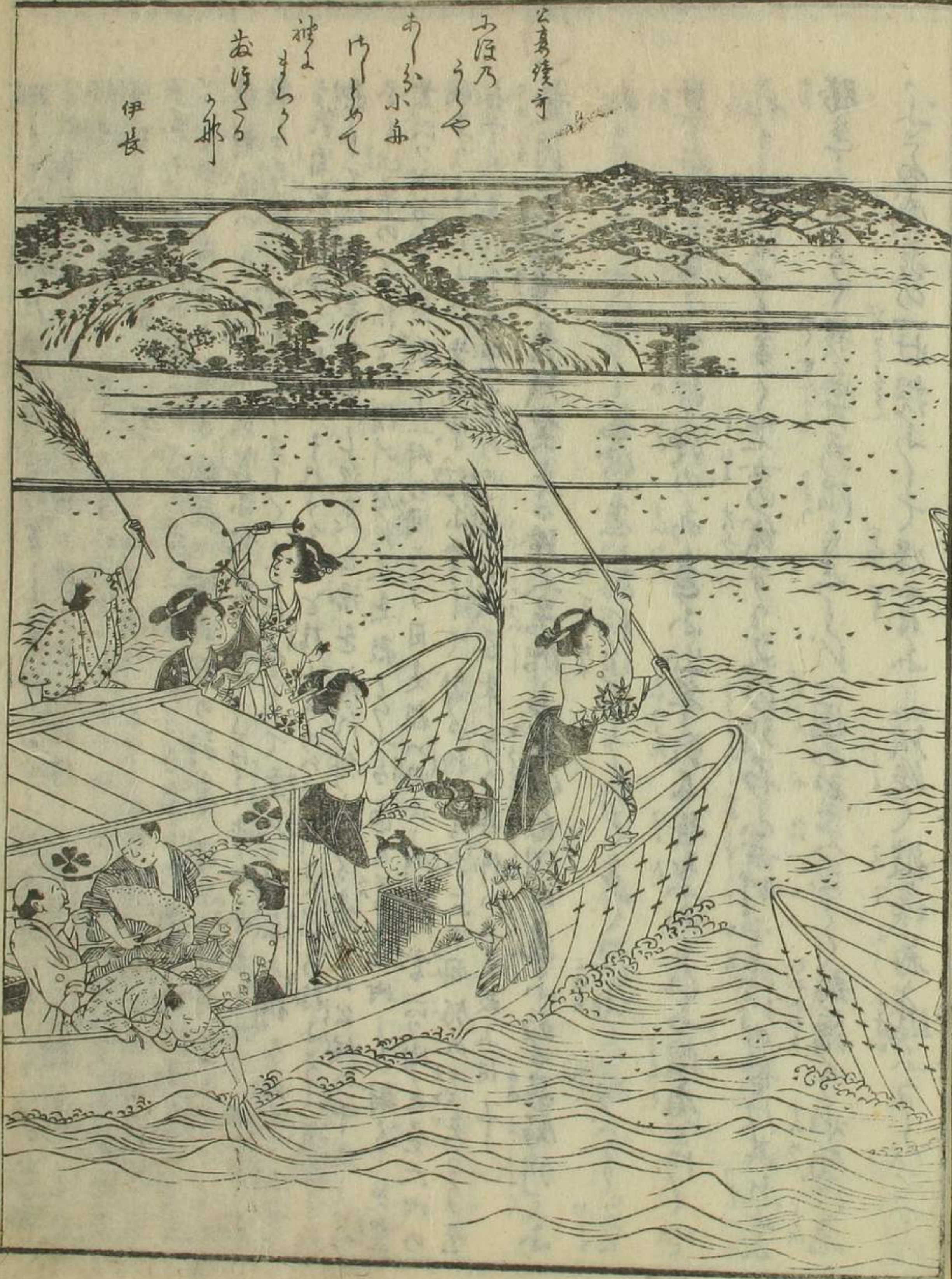
○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に

○是月 禁裏 院中 及び 貴の家 又 秋に



平生大暑の最良大火の言をたぐく老成遊んりるとはけ出の身系
火意りれ義きりては或人の路りき

諸國中行事大成卷三下終

